

ねぶた囃子と青森県の伝統芸能の音楽

——お山参詣と駒込獅子踊に注目して

田中惟真 愛知県立芸術大学音楽学部作曲専攻（音楽学コース）

要旨

青森県青森市で、毎年8月に開催される青森ねぶた祭では、笛・太鼓・テブリガネの演奏するねぶた囃子に合わせて、ハネトと呼ばれる踊り手の集団が県道を練り歩く。しかし、このような現在のねぶた祭りとは、50年以上前のねぶた祭の光景は違っていた。囃子やハネトの踊りについても今とは異なる点が多くつかある。ねぶた祭はその長い歴史の中で、祭の性格や運行形態が変わっていったのである。ねぶた囃子やハネトの踊りもその影響を受け、現代の様式を確立していった。また、ねぶた囃子やハネトの踊りは、青森市外の地域からの影響が見られる。現在のねぶた祭の音楽的な様式の確立には、さまざまな要素が絡み合っているのである。本論文は、ねぶた祭のほかに、岩木山のお山参詣と駒込の獅子踊を取り上げ、これら3つの祭りと伝統芸能における、音楽と踊りを相互に比較して、ねぶた囃子や踊りがたどった変化と地域から見る関連性を探る。

論文全体は2章から構成される。

第1章では、論文で取り上げる3つの祭りと伝統芸能の基本的な情報と、分析の手法を提示する。第1章で提示した事柄をもとに、第2章では複数の視点からねぶた囃子とその他伝統芸能の音楽を分析する。ねぶた祭りの音楽と比較する対象は、岩木山のお山参詣と駒込の獅子踊である。岩木山のお山参詣は、青森県弘前市の岩木山で、毎年9月に行われる行事である。獅子踊とは、東北地方に広く分布する伝統芸能で、雄獅子が雌獅子を追いかける様子を踊りで表現する。この2つを選んだ理由は、ねぶた囃子に与えた影響が見られることにある。ねぶた囃子を演奏する楽器は篠笛、太鼓、テブリガネである。テブリガネとは、2つの皿状の金属をぶつけて音を出す楽器である。資料によると、テブリガネは元々のねぶた囃子にはなかった楽器で、お山参詣の囃子の影響で取り入れられたと見られている。テブリガネは獅子踊の囃子にも用いられる。そし

て、駒込のねぶた囃子は、お山参詣や獅子踊の囃子に似ているという。このことから、青森ねぶたの囃子は周辺地域の伝統芸能の音楽を吸収して出来上がったと推測できる。駒込のねぶた囃子に似ているという、お山参詣と獅子踊は、青森ねぶたの囃子や踊りがどのように形成されていったのかを考察する上で重要なヒントになり得るだろう。また第1章では、青森ねぶた祭と地域の伝統芸能とを比較する手法として、囃子の旋律を採譜することを提案する。ねぶた囃子の団体や青森県音楽資料保存会がYouTubeに公開している動画を聞き、篠笛の旋律のみ採譜した。ねぶた囃子、お山参詣の登山囃子と下山囃子、駒込獅子踊の囃子の楽譜をソフト作成した。

第2章では、第1章で提示した資料と分析の手法を用いて、ねぶた囃子とその他伝統芸能の囃子とを比較する。ねぶた囃子、お山参詣の登山囃子と下山囃子、駒込獅子踊の囃子の4つを、5つの項目ごとに分けて観察し、囃子や踊りの特徴を整理する。囃子のそれぞれの特徴を整理して示されたのは、青森ねぶた祭、お山参詣、駒込獅子踊は囃子と密接に結びついた身体的な動きがあるということだ。

まず、青森ねぶた祭のハネトは、「ラッセラー、ラッセラー、ラッセラッセラッセラー」という声を出しながら、囃子のリズムに合わせて足を交互に入れ替えて飛び跳ねる。この跳ね踊りは青森ねぶた祭に昔からあるものだが、ある時期に別の踊りが流行した。それが流し踊りである。昭和30年代、旧青森市外から参加した青年団の影響で、跳ね踊りが減り、流し踊りが増えるということが起きた。隊列を組み、揃った振り付けで踊る流し踊りは、入り乱れて自由に踊るハネトとは対照的である。昭和40年代以降はハネトの勢いが復活した。次にお山参詣のバタラ踊りである。お山参詣では、岩木山山頂への登拝を終えて無事下山することができたという喜びを、下山囃子に合わせたバタラ踊りで表現する。登山囃子はゆったりとした曲調だが、下山囃子は登山囃子よりもテンポが速く快活さがある。紙でできた飾りを両手に持って、手を振りながら練り歩く様子は、昭和30年代に青森ねぶた祭で流行した流し踊りを彷彿とさせる。

次に駒込獅子踊の動作である。2016年に撮影された、青森県下で行われる獅子踊の大会の映像を見てみる。神社の鳥居から獅子（踊り手）が入場するの

だが、この時演奏される囃子は参進の囃子というものである。この参進の囃子のリズム感と、獅子の跳躍の動作には、青森ねぶた囃子とハネトの跳ね踊りに通じるものがある。加えて、身体的な動きのほかにも、比較した4つの囃子のうち、ねぶた囃子、お山参詣の登山囃子、駒込獅子踊の囃子は陽旋律であり、旋律の調性からも囃子の間のつながりが見える。

このように、ねぶた囃子、登山囃子と下山囃子、駒込獅子踊の参進の囃子について比較すると、それぞれの行事は地域や行事の趣旨は異なるが、それぞれが持つ音楽的特徴や身体的な動作は似通っている部分があることに気づく。そこで考えられるのが、特定の地域の行事で演奏される囃子は、その地域にとどまらず、何らかの要因で他の地域に形を変えながら伝搬するということである。ねぶた囃子の源流の一つがお山参詣にあると言われているように、ねぶた囃子も周辺の地域の音楽に影響を与えている可能性もある。本論文で取り上げた青森ねぶた祭は、青森市の歴史や発展に深く関わっており、お山参詣が形式化したのは江戸時代からと言われている。祭礼や行事の音楽を考察するとき、地域の歴史や、地理的な位置や環境との結びつきに目を向けることで、その音楽が成立した背景にある要素が浮かび上がって来るのだろう。